

日本都市社会学会ニュース

NO. 105 (2016.11.25)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学教育学部・山口恵子研究室内

e-mail: usocio@urbansocio.sakura.ne.jp fax: 042-329-7429

(振替口座：00140—4—703976) URL: <http://urbansocio.sakura.ne.jp/>

第 34 回大会の報告

三田 知実 (熊本県立大学)

日本都市社会学会の第 34 回大会は、2016 年 9 月 3 日（土曜日）と 9 月 4 日（日曜日）の 2 日間にわたり、佛教大学紫野キャンパス（京都市北区）で開催された。両日の参加者人数は、111 名（会員 79 名、非会員 17 名、韓国からの参加者 15 名）であった。2015 年 9 月に開催された第 33 回大会（静岡県立大学谷田キャンパス）に続き盛会となった。

大会初日は、二つの自由報告部会と特別セッション「鈴木広と奥田道大の都市社会学と現在」が行われた。大会二日目は、午前中に自由報告部会と日韓研究者によるテーマ報告部会「メガイベントと都市」が開催された。そして第二日目の午後には、シンポジウム「バブル期の都市問題とジェントリフィケーション論——なぜ『地上げ』は『ジェントリフィケーション』と呼ばれなかったのか」が開催された。第 34 回大会は、これらの部会、セッションやシンポジウムにより構成された大会であった。都市社会学の伝統と革新が凝縮された非常に充実した大会となった。

大会初日に開催された特別セッション「鈴木広と奥田道大の都市社会学と現在」では、日本の都市社会学を長年牽引してきた鈴木広（1931-2014）と奥田道大（1932-2014）の研究を振り返り、今後における日本の都市社会学に求められる研究課題を見出すための貴重な報告と討論がなされた。

大会二日目の午前に開催された日韓研究者によるテーマ報告部会「メガイベントと都市」では、オリンピックのようなメガイベントを、都市再開発、都市の商品化、そしてメガイベント後の施設の在り方を結びつけて検討する部会となった。メガイベント開催前の開発に関わる諸問題と、メガイベント開催後のインフラストラクチャー維持管理に関する諸問題が提示された。日韓の都市社会学者のあいだで、土地への投機、インフラ整備とメガイベントが生み出す諸問題を結びつけた議論が深められた会合であり、2018 年平昌オリンピック、2020 年東京オリンピックを間近にひかえる日韓の都市研究者にとって、非常に有意義な部会であった。

大会二日目の午後には、シンポジウム「バブル期の地上げがなぜジェントリフィケーションと呼ばれなかったのか」が開催された。報告と討論をつうじ、東京の都市再開発においては、ジェントリフィケーション概念をそのまま、事例研究にあてはめることはできないことが、改めて確認された。土地資産バブル期から今日までの東京都心の空間再編過程をもとに、ジェントリフィケーションとは異なった独自の捉え方を生み出す必要があるのかもしれない。

このように 2016 年度の第 34 回大会は、「鈴木広と奥田道大の都市社会学」、「メガイベントと再開発」、そして「東京の空間再編とジェントリフィケーション」という、伝統と革新を意識し企画された大会であったといえる。自由報告部会においても、現代都市社会学の最先端をゆく事例研究が報告された。都市社会学の基礎を、何度も深く学び直し、革新的な都市社会学研究を生み出すことが、常に求められていることを筆者は再確認した。

今後も日本都市社会学会の会員が、都市社会学理論の検討と、都市社会の諸現象、諸問題に向き合うことにより、学術的貢献のみならず社会に貢献できる学術団体として、さらに発展することを願っている。日本都市社会学会の第 35 回大会（2017 年）は、早稲田大学（東京都新宿区）で開催される予定である。つぎの大会も盛会となることを、筆者は期待している。

総会の記録

総会は、大会1日目の9月3日（土）、下記の次第にそって行われました。

1. 開会の辞（高木竜輔理事）
2. 会長挨拶（広田康生会長）
3. 開催校挨拶（近藤敏夫会員）
4. 座長推挙（鯉坂学会員を選出）
5. 諸報告

(1) 2015-2016 年度理事会報告

山口恵子事務局担当理事より、2015-2016 年度の理事会に関する報告がありました。現在、会員の地域ブロックについて理事会で議論していることについての説明が行われました。

(2) 2015-2016 年度企画委員会報告

高木恒一企画委員会委員長より、2015-2016 年度の企画委員会活動についての報告がありました。

(3) 2015-2016 年度編集委員会報告

西村雄郎編集委員会委員長より、年報 34 号の編集作業状況、J-Stage へのアップロード作業状況、年報 35 号の投稿募集について、それぞれ報告がありました。

(4) 国際交流委員会報告

玉野和志国際交流委員会委員長より、韓国地域社会学会との交流についての報告がありました。

(5) 震災関連特別委員会担当報告

渡戸一郎常任理事より、東日本大震災についての提言をアーカイブに移すことについて報告がありました。

(6) 新入会員紹介

山口恵子事務局担当理事より、新入会員名の紹介があり、全員拍手をもって承認されました。

6. 第6回日本都市社会学会若手奨励賞選考委員会報告および授与式

渡戸一郎学会賞選考委員長より選考過程および結果、受賞作品と受賞理由に関する報告が行われました。受賞者と受賞作品は以下の3件です。

〔著書の部〕 赤枝尚樹 『現代日本における都市メカニズム——都市の計量社会学』（ミネルヴァ書房、2015 年）

〔論文の部〕 阪口毅 「「都市コミュニティ」の創発性への活動アプローチ——大都市インナーシティ・新宿大久保地区の市民活動を事例として」（『日本都市社会学会年報』33、2015 年所収）

白波瀬達也「あいりん地域における居住支援——ホームレス支援の新たな展開と課題」（『理論と動向』7、2014 年所収）

7. 議事

(1) 規約の改正について

広田康生会長より、日本都市社会学会規約に関して所在地についての文言の修正について提案があり、承認されました。

(2) 日本都市社会学会若手奨励賞内規の改正案について

渡戸一郎学会賞選考委員長より日本都市社会学会若手奨励賞内規の改正についての提案があり、承認されました。

(3) 2015 年度決算および監査報告

山口恵子事務局担当理事から 2015 年度決算についての報告、次いで浦野正樹監事から監査報告があり、承認されました。

(4) 2016 年度予算案承認の件

引き続き山口恵子事務局担当理事から 2016 年度予算案についての説明があり、承認されました。

(5) 次回大会の件

広田康生会長より、2017年度の大会（第35回大会）を2017年9月9日（土）、10日（日）に、早稲田大学で開催する旨の報告があり、承認されました。また、大会開催校を代表して早稲田大学の浦野正樹会員より挨拶がありました。

8. 閉会の辞（高木竜輔理事）

2015 年度決算報告および 2016 年度予算

2015 年度決算報告（2015 年 4 月 1 日～2016 年 7 月 31 日）

収 入				支 出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	30,000	20,000	10名	消耗品費	40,000	50,620	事務局封筒等
			17年度 一般:1名				
			16年度 一般:134名、学生20名				
学会費	1,205,000	1,589,500	15年度 一般:71名、学生13名	通信費	200,000	230,398	
			14年度 一般:10名、学生:6名				
			13年度 一般:3名、学生:1名				
			その他不足分等				
広告収入	40,000	10,000		ニュース印刷費	100,000	97,448	第102号(350部)・103号(350部)・104号(450部)
雑収入	20,000	132,527	複写使用料等	年報印刷費	500,000	432,000	第33号(400部)
年報販売	100,000	91,100	1,900円:29冊、2,000円:18冊	大会開催費	100,000	100,000	第34回大会(佛教大学)
編集委員会残金	17,855	16,644	14年度分	役員・委員会費	350,000	58,384	役員・委員旅費補助
				事務局費	300,000	219,459	事務局員手当、アルバイト代、HP管理費等
				学会賞費	20,000	8,958	賞状等
				企画委員会費	160,000	61,390	非会員旅費・非会員謝金
				編集委員会事務局費	50,000	33,356	
				国際交流費	100,000	0	
				震災関係特別委員会	100,000	0	
				社会学系コンソーシアム	10,000	10,000	
				学会費返金	0	21,500	
				予備費	2,869,753	0	
繰越金	3,486,898	3,486,898					
計	4,899,753	5,346,669			4,899,753	1,323,513	
次年度繰越金					4,023,156		

2016 年度予算案（2016 年 8 月 1 日～2017 年 7 月 31 日）

収 入			支 出		
項 目	予 算	備 考	項 目	予 算	備 考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	40,000	文具、封筒等
学会費	1,205,000	一般170名、学生25名	通信費	200,000	
広告収入	40,000		ニュース印刷費	100,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	複写権収入等	年報印刷費	500,000	第34号(2016年号)400部
年報販売	100,000		大会開催費	100,000	第35回大会
編集委員会残金	16,644	15年度分	役員・委員会費	350,000	役員・委員の旅費補助を含む
			事務局費	300,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			学会賞費	20,000	賞状等
			企画委員会費	160,000	非会員の旅費・謝礼を含む
			編集委員会事務局費	150,000	編集関係通信費、英文校閲費等を含む
			国際交流費	100,000	
			社会学系コンソーシアム会費	10,000	
			予備費	3,404,800	
繰越金	4,023,156				
計	5,434,800			5,434,800	

第 6 回日本都市社会学会若手奨励賞受賞作品の紹介と選考理由

2016 年度学会賞選考委員会（以下、委員会）は、学会規約第 2 条第 3 項ならびに若手奨励賞選考内規の定めるところにより、若手奨励賞の選考を行い、受賞作を決定した。以下、選考過程、選考結果、選考理由について報告する。

1. 選考過程

(1) 会員による自薦・他薦、(2) 推薦委員（後掲）による推薦、(3) 学会事務局が会員を対象に行う文献調査によって作成された著作一覧をもとに、2014 年 1 月から 2015 年 12 月末までに刊行された著書 11 件、書籍分担執筆 6 件、査読付き論文 16 件、その他 14 件を審査の対象とした。受賞資格者は、受賞対象となる研究業績の公刊時点で、博士（後期）課程入学後 10 年以内の研究歴をもつ本学会員である。

2016 年 3 月 5 日、7 月 23 日の 2 回の委員会における審議の結果、以下のように受賞作を決定した。

2. 選考結果

[著書の部]

赤枝尚樹『現代日本における都市メカニズム——都市の計量社会学』ミネルヴァ書房、2015 年

[論文の部]

阪口毅「「都市コミュニティ」の創発性への活動アプローチ——大都市インナーシティ・新宿大久保地区の市民活動を事例として」『日本都市社会学会年報』33、2015 年所収

白波瀬達也「あいりん地域における居住支援——ホームレス支援の新たな展開と課題」『理論と動態』7、2014 年所収

3. 選考理由

[著書の部]

赤枝尚樹『現代日本における都市メカニズム——都市の計量社会学』、ミネルヴァ書房、2015 年

本書は、「都市は人びとにどのような影響を与えるのか」という都市社会学の根源的な問いに計量社会学的手法からアプローチした意欲的な書である。第Ⅰ部では、体系的な理論枠組みとして「社会解体論（ワースラシカゴ学派）」「非生態学的立場（ガンズ）」「第3の潮流（フィッシャー・ウェルマン）」が的確に整理され、それらの理論を実証的に分析するための方法が論じられている。その手順は極めて明快である。第Ⅱ部では、日本の都市が人びとの紐帯とパーソナリティにおよぼす効果がマルチレベル分析等によって検討され、フィッシャーの下位文化理論とウェルマンのコミュニティ解放論が想定するメカニズムの日本での妥当性が示されるとともに、新たな知見として「同類結合にみる現代日本の独自性」と「非通念性の複合的生成メカニズム」が発見されている。このように本書は、理論と方法の接合をはかりつつ、今後の日本の都市社会学の新たな展開にもつながる知見を見いだした点で、若手奨励賞受賞に値するものとして高く評価できる。

[論文の部]

◇阪口毅「「都市コミュニティ」の創発性への活動アプローチ——大都市インナーシティ・新宿大久保地区の市民活動を事例として」『日本都市社会学会年報』33、2015 年所収

本論文は、「都市コミュニティ」を「流動化／構造化する社会過程から創発する、領域性と共同性のシンボリズム」と規定した上で、「都市コミュニティ」が創発する条件を析出するための方法論の検討と実証研究の中間報告から構成され、「活動アプローチ」という独自の方法論を提起することで、都市コミュニティの理論と実証的研究への架橋を試みた意欲作である。筆者の言う「活動アプローチ」とは、住民運動・市民活動研究の蓄積を踏まえたもので、3つの基本方針と3つの戦略（①分析単位の方節化、②諸制度・組織・集団の動態把握、③諸個人の動態把握、④集合的出来事の連関分析）を提起している。論文後半の新宿大久保地区における市民活動「共住懇」の事例研究は、戦略①に絞って「共住懇」の活動を中心とする「集合的出来事」の記述と分析を行っている。

以上のように、後半の事例研究が戦略①に絞った点において「活動アプローチ」の全体的把握に不十分な点はあるものの、フィールドワークの知見に基づく「活動アプローチ」を提起した本論文は、若手奨励賞にふさわしいものと判断される。

◇白波瀬達也「あいりん地域における居住支援——ホームレス支援の新たな展開と課題」『理論と動態』7、2014年所収

本論文は、「サポーターハウス」と呼ばれる支援付き住宅の実態を明らかにするとともに、その課題をまとめたものである。著者は、これまでのホームレス問題をめぐる研究史を整理し、安定就労の獲得から居住確保へと生活困窮者支援の内容が変わってきていることを指摘するとともに、バブル景気崩壊後の「労働なき寄せ場」における活動に注目する。そして具体例として、大阪西成区あいりん地域において民間主導で行われているサポーターハウスの試みを取りあげ、その実態を、「仕組み」「入居経路・入居期間」「入居者属性」「支援内容」の観点から明らかにし、それがもっている「貧困ビジネスとの混同」「居住福祉ステージへの中途半端な移行」「支援の有効性の評価困難性」といった課題を指摘している。研究の位置づけ、論旨は明確であり、目の付けどころも的確である。何よりこの論文のよいところは、この活動に注目する意義が全体を通して伝わってくるところである。もう一段の抽象化、理論化がなされれば、さらによかったには違いないが、それは今後に期待することとして、学会として若手奨励賞を授与するにふさわしい業績と判断した。

4. 2015～2016 年度学会賞選考委員・推薦委員

[学会賞選考委員]

渡戸一郎（選考委員長）、稲月正、奥田憲昭、黒田由彦、後藤範章、中西典子、早川洋行、松藺祐子、水上徹男、和田清美。なお、黒田委員は2015 年度のみ。

[推薦委員]

（北海道・東北）飯田俊郎、永井彰、（関東）新田目夏美、斎藤麻人、中澤秀雄、浅川達人、西野淑美、田嶋淳子、（中部・関西）近藤敏夫、杉本久子、永井良和、松宮朝、室井研二、（中国・四国・九州）文屋俊子、速水聖子、伊藤泰郎

（学会賞選考委員会前委員長 渡戸一郎）

理事会報告

2015 年度第6 回理事会は、9 月2 日（金）佛教大学四条センターにて開催されました。1. 企画委員会報告、2. 編集委員会報告、3. 国際交流委員会報告、4. 学会賞選考委員会報告、5. 事務局報告のほか、①第6 回日本都市社会学会若手奨励賞選考結果について、②若手奨励賞内規・選考委員会細則等の改正について、③第34 回大会総会について、④次回大会について審議されました。

2016 年度第1 回理事会は、10 月16 日（日）専修大学神田キャンパスにて開催されました。1. 企画委員会報告、2. 編集委員会報告、3. 国際交流委員会報告、4. 学会賞選考委員会報告のほか、①学会賞選考委員および若手奨励賞推薦委員の選出について、②ブロック制の変更について審議されました。

（事務局担当理事 山口恵子）

企画委員会報告

9 月4 日の第34 回大会終了後、本年度の第1 回企画委員会を開催し、大会の総括と反省を行いました。その後10 月16 日に第2 回委員会を開催し、次回大会の企画について協議しました。シンポジウムは、大会特別セッションの問題提起を受けてコミュニティ概念の再検討をテーマとする方向で検討していくこととしました。また、従来のテーマ部会に代わる新しい形式のセッションを検討することにしました。各委員の役割分担を決定したので、今後、企画案を具体化していく予定です。詳しい検討状況は、次回学会ニュースでお知らせいたします。

なお、国際交流委員会からも報告がありますが、本学会会員は韓国地域社会学会での自由報告の資格があります（相互協定による）。本年度の特別セッションで提起された国際化の促進のためにも、積極的にご検討ください。

（企画委員会委員長 高木恒一）

編集委員会報告

年報 35 号 (2017 年) 自由投稿論文・研究ノート募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』35 号 (2017 年 9 月発行予定) に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』34 号 (2016 年 9 月発行) に掲載されている「投稿規定」、「執筆要綱」、「編集規定」をご覧ください。審査用原稿 (3 部) を 2016 年 11 月 30 日 (消印有効) までに、下記編集委員会事務局宛、余裕をもって郵送してください。会員みなさんの奮っての投稿をお待ちしています。なお、投稿資格のないもの、投稿期限の過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

送付先

〒739-8521 東広島市鏡山 1 丁目 7-1 広島大学大学院総合科学研究科
西村雄郎研究室内 日本都市社会学会年報編集委員会事務局
E-mail : nisimura@hiroshima-u.ac.jp 電話 : 082-421-7549 (直通)

(編集委員会委員長 西村雄郎)

国際交流委員会報告

今回、京都の佛教大学で行われた大会では、韓国地域社会学会から総勢 15 名の方が参加してくださいました。前例のない大勢の参加者で、改めて感謝したいと思います。大会プログラムの上でもテーマ報告部会「メガイベントと都市」では、イ・ヒョンソさんとキム・ウネさんからご報告をいただき、日本側からの報告者である松林秀樹さんの報告も含めて、活発な議論が行われました。また、自由報告部会でもキム・チヨンさんとイム・ドンキュンさんが報告を行っています。懇親会にも大挙ご参加いただき、日韓両学会の交流がさらに深まり、新しい段階へと進めていける状況になってきたように思います。この流れをさらに進めるためにも、来年 5 月に韓国の釜山で行われる大会には、日本からのより多くの参加者ならびに報告者が期待されると思います。

幸い、韓国地域社会学会釜山大会に関する日程のお知らせがすでに届いておりますので、以下の通りご案内いたします。ふるってご参加ください。

日程 : 2017 年 5 月 12 日 (金) ・ 13 日 (土)

場所 : 釜山ドンア大学校

※日本からは 11 日 (木) 午後に出て、13 日 (土) 夜もしくは 14 日 (日) 帰国の予定になるかと思います。

参加のご希望のある方は事前に玉野 (tamano@k.email.ne.jp) までご連絡いただければと思います。適宜、情報を提供いたします。すでに何人かの方からご希望が知らされておりますので、是非ご検討ください。なお、韓国地域社会学会大会での自由報告をご希望の方は、なるべく早く直接玉野までご連絡ください。先方もプログラム作成上の都合があるでしょうから、早めに調整を進めたいと考えております。

これを機会に、日韓の交流がより深まることを祈念いたします。

なお、来年イギリスのリーズで行われる RC21 大会の詳細が発表されました。以下でご確認ください。当学会大会の日程と若干かぶりますが、よろしくご検討ください。

<http://www.rc21.org/en/rc21-conference-2017-call-for-sessions/>

(国際交流委員会委員長 玉野和志)

社会学系コンソーシアム報告

社会学系コンソーシアム第9回シンポジウム開催のお知らせ

社会学系コンソーシアムでは、2017年1月28日(土)の午後1時～5時に日本学術会議(東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口徒歩1分)の講堂において、「現代社会における分断と新たな連帯の可能性——階層・世代・地域・民族・情報の視点から」と題するシンポジウムを開催する予定です。登壇者については、現在調整中です。詳細については、コンソーシアムのウェブサイト(<http://www.socconso.com/>)をご参照下さい。

(社会学系コンソーシアム評議員 後藤範章・松菌祐子)

第10回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)候補文献の調査および推薦に関するお願い

「日本都市社会学会賞(磯村記念賞)内規」にもとづき、文献調査を行います。あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。多くの方々からの応募をお待ちしています。

受賞資格者および対象：原則として、日本都市社会学会個人会員の刊行された著書ですが、編著・共著も対象にすることができます(学会賞内規3)。

対象著書：今回、対象となるのは、2015年1月1日～2016年12月末日の2年間に刊行された、本学会会員の研究業績です(内規6)。

選考基準：次の1つ以上の要件に該当する研究業績を受賞の対象として選考します(内規7)。

- (1) 都市社会学に関する独創的な研究であること。
- (2) わが国都市社会学研究において画期的な意義を有するものであること。
- (3) 都市社会学研究の新しい分野において、とくに優秀な業績と認められるものであること。
- (4) 永年にわたる蓄積の成果が、わが国都市社会学研究に大きな貢献をもたらしているものであること。
- (5) 国際的に高く評価されているものであること。
- (6) その他、都市社会学研究の進歩発展のため意義があると認められるものであること。

文献調査：上記の基準を満たす著書を発表した会員は、同封の調査用紙に所定事項を記入の上、2017年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦：上記の基準を満たす著書のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する学術の進歩発展に貢献したと認められる研究業績」(内規1)をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項をご記入の上、2017年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。

宛先・問い合わせ先：学会事務局の住所は、本ニュース1頁目にあります。予算の関係上、送料は自己負担でお願いいたします。また、この件についてのお問い合わせは、学会事務局までe-mailでお願いいたします。選考対象のリスト作成は、会員自身による文献調査報告や自薦がまずは基本となります。該当される方は、ぜひとも積極的に対応下さい。なお、学会賞用の調査用紙・自薦他薦用紙は学会WEBサイトからダウンロードできますので、ご活用ください。

その他：第10回都市社会学会賞の選考結果については、2017年度の学会大会時に発表します。また、第7回若手奨励賞(著書の部と論文の部)については、2016年1月1日～2017年12月末日の2年間に発表された著書・論文が対象となり、2018年度の学会大会時に結果を発表します。なお、2016年9月の総会で、若手奨励賞「論文の部」の受賞対象が、「原則として『日本都市社会学会年報』に掲載された単著論文とする。ただし、『日本都市社会学会年報』以外に発表された単著論文に関して、会員および推薦委員から推薦があった場合には対象に含める」と改定されておりますことを付記しておきます。

(日本都市社会学会賞担当理事 後藤範章)

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

第34回大会に参加されず2016年度の年会費を納入されていない会員、および過年度の年会費の納入がすすんでいない会員の方には、学会費納入用の振り込み用紙を本ニュースに同封いたしました。お早めに納入くださいますよう、お願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、2009年1月に全国銀行データ通信システムに接続することにより、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名	郵貯銀行	預金種類	当座
金融機関コード...	9900	口座番号	0703976
店番	019	受取人名	ニホントシシャカイガッカイ
店名 (カナ)	〇一九 (ゼロイチキュウ店)		

2. 第35回大会について

第35回大会は、2017年9月9日、10日に早稲田大学にて開催されます。

会員異動

新入会員 (2016年9月2日理事会承認)

<関東地区>

崔誠文 横浜国立大学大学院

<中部・関西地区>

青木康容

退会 (2016年9月2日、および10月16日理事会承認)

<関東地区>

高橋勇悦 東京都立大学名誉教授

小林多寿子 一橋大学

<中部・関西地区>

御葉袋啓子 吉備国際大学

ご逝去

佐藤祐一 宇部フロンティア大学

学会事務局より

- ◆第34回大会は、無事開催することができました。開催校の近藤敏夫会員をはじめ関係者の皆様に、事務局からあつく御礼申し上げます。
- ◆第34回大会に参加された会員の皆様には「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封いたしました。

- ◆第34回大会に参加されなかった会員の皆様で、2015年度までの会費納入者の方には『日本都市社会学会年報 34号』と「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封いたしました。なお、2016年度の年会費を未納の方は、同封の「振込用紙」にて、お振込くださいますよう、よろしくお願いいたします。
- ◆第34回大会に参加されなかった会員の皆様で、2015年度までの会費に未納分がある方には、「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封し、『日本都市社会学会年報 34号』は同封しておりません。未納分をお振込いただき次第、お支払いいただいた年度の翌年発行の年報をお送りさせていただきますので、同封の「振込用紙」にてお振込くださいますよう、よろしくお願いいたします。
- ◆第35回大会を、2017年9月9日（土）、10日（日）に、早稲田大学にて開催いたします。詳細につきましては、次号の学会ニュース、および学会ホームページにてお知らせする予定です。

（事務局担当理事 山口恵子）